

エストニア共和国

国の概要 (外務省 HP より)	面積 45,000 km ²			
	人口 約 133 万人 (2021 年)			
	首都 タリン			
教育行政組織				
<table border="1"> <tr> <td>国</td> <td>教育研究省</td> </tr> <tr> <td>地方</td> <td>国内 2 大都市 (タリン, タルトゥ) を除き, 国が後期中等段階を管轄する。ただし, 各市がすべての基礎教育 (小学校と中学校) 段階を管轄する。</td> </tr> </table>	国	教育研究省	地方	国内 2 大都市 (タリン, タルトゥ) を除き, 国が後期中等段階を管轄する。ただし, 各市がすべての基礎教育 (小学校と中学校) 段階を管轄する。
国	教育研究省			
地方	国内 2 大都市 (タリン, タルトゥ) を除き, 国が後期中等段階を管轄する。ただし, 各市がすべての基礎教育 (小学校と中学校) 段階を管轄する。			
教育課程基準	国定カリキュラムによる。オルタナティブ教育も存在するが, すべて国定カリキュラムにしたがう。			
教科書制度				
教科書の定義	学習材として規定されているが, 教科書を定義する法律は無い。			
発行主体	国が発行という形をとるものの, 著作権は出版社にある。			
国定, 検定, 認定などの制度	2008 年までは国によるチェックがあったが, それ以降は専門家による内容の確認のみである。			
採択・選定などの制度	選択は学校による。基本的に教科担当教員が決める。			
使用義務の有無	義務ではない。実際には他に選択肢が無いため, 多くの学校で教科書は使われている。			
有償・無償	初等・中等段階とも無償。ただし, 中等段階のワークブックは有料で生徒が購入する。			
給与・貸与	貸与。卒業時に生徒は学校に返却。ただし, 5 年ほどで内容は更新される。			
教科書の特色	日本と似た形で教科書を中心に授業は展開される。ただし, 本文でも示すとおり, 紙媒体での教科書の存在意義は薄くなり, オンライン教材が主流となっている。			
デジタル教科書の状況	教材データベース「Opiq」が教育研究省下に置かれ, そこでは学習材へ誰でもアクセスできる。			